

No.70 contents

- 2 〈絵画〉総評
- 3 〈絵画〉新会員紹介
- 4 〈絵画〉受賞作品一制作の視点
- 5 〈絵画〉これからの事など 受賞者一覧
- 6 〈絵画〉第101回展 特選作品寸評
- 8 〈彫刻〉総評 新会員紹介
- 9 〈彫刻〉受賞作品一制作の視点 受賞作品寸評
- 11 バリ賞・ローマ賞 研修報告
- 12 event memo(オープニングセレモニー・授賞式・懇親会・作品研究会
ギャラリートーク・ナイトミュージアム・二科ショップ)
- 13 第101回二科展コラボ展示 報告
- 14 2016年度義援活動報告 チャリティー報告
- 第101回二科巡回展日程 2017春季二科展 選抜出品予定者・日程
- 15 〈デザイン部・写真部〉総評
- 16 理事会報告・評議員会報告 計報 事務局だより 編集後記



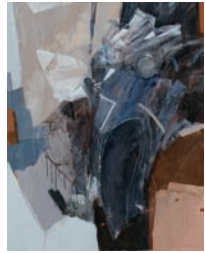
秋季

発行人：田中 良 発行：公益社団法人 二科会
<http://www.nika.or.jp/> TEL：03-3354-6646
 E-mail：nika@nika.or.jp



101ST NIKA ART EXHIBITION 2016





Feel me II 木村利加子

Days Of Wine And Roses
上村伊佐子

窓2 大築笙子

ブルーボーイ(峻)C
大久保リツ子

光陰の中で(2) 石黒厚子



夏よぶ鳥 I 飯田由美子



狭い空間 山下 宏



刻(うつろい) II 村上雅洋



海峡の朝Ⅲ 長谷川昭三



milestone #1 根木 悟



作業船(群船)① 高山章亮



青の季節Ⅱ 瀬野道子

雨、風、霧、寒さに耐え力強く咲くブルーボーピー。透きとおる青と、厳しい環境を表現しました。少しの陽ざしも…。

第75回 特選／第81回 会友推挙
第86回 会友賞／第101回 会員推挙



大久保リツ子

第75回 75周年記念賞
第77回 会友推挙／第80回 会友賞
第83回 パリ賞／第101回 会員推挙

縄文土器からの美を意識し、特に地塗りに重点を置きました。平面的とマチエールを用いての表現に心掛けました。

第75回 75周年記念賞
第77回 会友推挙／第80回 会友賞
第83回 パリ賞／第101回 会員推挙



石黒厚子

第82回 特選／第83回 会友推挙
第93回 会友賞／第101回 会員推挙

凍付く北国にあつてモノトーンの美しさに魅せられつつ、きらめく色彩の世界へ…人間の営みによりそい希望、祈り、命の輝きを鳥に託して描いてみた。

第82回 特選／第83回 会友推挙
第93回 会友賞／第101回 会員推挙



飯田由美子

絵画部 新会員紹介

線・形・色・点などの空間造形のせめぎあいから生れるリズム・緊張感を自分なりの世界感で表現できたらと制作しています。

第86回 上野の森美術館奨励賞
第88回 会友推挙／第95回 会友賞
第101回 会員推挙



木村利加子

第76回 特選／第81回 会友推挙
第95回 会友賞／第101回 会員推挙

音楽界の絵を描いています。楽器を描くというより、音楽を絵にしたいと思う、舞台の雰囲気、観客の感動等感じつつ描いています。

第76回 特選／第81回 会友推挙
第95回 会友賞／第101回 会員推挙



上村伊佐子

第88回 上野の森美術館奨励賞
第90回 会友推挙／第92回 会友賞
第101回 会員推挙

子供の頃に見た情景と今現在の感覚を融合させながら心象風景を描いています。この先も心の目に映るものを表現していきたいです。

第88回 上野の森美術館奨励賞
第90回 会友推挙／第92回 会友賞
第101回 会員推挙



大築笙子

『純粹なただの形、色、調子、動きの中に、滲み出る魂の美しさがある。』ジョナス・メカスの言葉をいつも心に留めています。

第95回 パリ賞／第96回 会友推挙
第97回 会友賞／第101回 会員推挙



根木 悟

第81回 特選／第85回 会友推挙
第98回 会友賞／第101回 会員推挙

無数の傷や凹み、長年風雨や潮風に曝された錆、それらは過酷な労働に耐えた証しの古い作業船。自らの人生をそこに見る気がする。

第81回 特選／第85回 会友推挙
第98回 会友賞／第101回 会員推挙



高山章亮

第78回 特選／第85回 会友推挙
第96回 会友賞／第101回 会員推挙

記憶から浮び出る色彩、形そして感動を画面に表現し心に響く絵を描きたい。又全ての境界を超越出来るか挑戦したいと思います。

第78回 特選／第85回 会友推挙
第96回 会友賞／第101回 会員推挙



瀬野道子

気づかずに過ぎてしまいうな日常に足を止めると人々と人として作り出す印象深い情景が生じている。それを力まず描いていきたい。

第85回 85回記念賞
第88回 会友推挙／第94回 会友賞
第101回 会員推挙



山下 宏

第82回 特選／第84回 特選
第88回 会友推挙／第91回 会友賞
第101回 会員推挙

刻(とき)をテーマに人物とモチーフを組み合わせ描いてきました。これからもマンネリにならないよう描いていきたいと思っています。

第82回 特選／第84回 特選
第88回 会友推挙／第91回 会友賞
第101回 会員推挙



村上雅洋

第87回 特選／第93回 会友推挙
第96回 会友賞／第101回 会員推挙

絵を描くことに喜びを感じ、会員になってさらに意欲が増しています。制作及び会のために努力を惜しまず、励みたいと思います。

第87回 特選／第93回 会友推挙
第96回 会友賞／第101回 会員推挙



長谷川昭三



絵画部会員 審査室にて

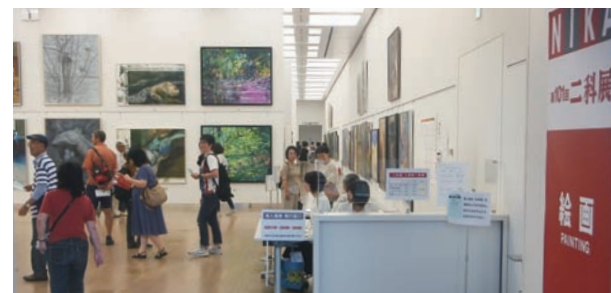
絵画部 総評

第101回二科展を迎えて

田中 良

南から北へと、災害が続く年の開催であつたが、入場者は例年通りの盛会となり改めて伝統の重みを知る。会場は、全会員の工夫努力と働き、また会友、出品者も含めて、作品の充実ぶりに感動した。各階の作品の配置等、各部門夫々配置の妙を得て大変好評であつた。福島県の高校生の大作も、指導応対した理事、事務局長らの骨折りで会場に陳列できた。今年のチャリティーではNHK厚生文化事業団

の他、熊本地震被災地へも売上げから寄付する事ができた。出品された各部会員の皆様にお礼を申し上げたい。又、コラボ展示の人気は益々盛んになり、これからも会員諸氏のアイデアと努力、四部門の会員有志のご協力に期待する。さて、世情の動勢か、出品者がやや減少傾向にある。会として重要な課題であり、今後の支部活動が大いに期待される。健康に留意し、来春も素晴らしい作品を。



絵画部会場 2階入口



絵画部会場 第1室



審査風景

審査は、例年どおり四日間、翌日の内閣総理大臣賞、会員賞なども含めおむね順調に決定された。今年も多数決でスムーズに行われた審査。初日の懇親会で外部審査員の本江邦夫氏からも、公平で透明と有難い評価を受けている。現状は、九年前の改革で、いろいろな問題を解決し皆さんで築いたものだ。しかし、新たに返るというトラウマが付き纏うがあれを提案したい。

今回、北海道に飯田由美子、大築笙子の二人、秋田県に石黒厚子とそれぞれ会員が誕生したことは、二科会として明い材料となった。さて、審査中に印象に残った作品を二、三あげておこう。作業船を描きつづけてきた高山章亮の「作業船（群船）①」、相変わらずのテーマでありながら、見事に自分の造形を創りあげた、船と水の色も響き合っ

これからの事など

中原史雄

な一歩となった今、培ってきたものが重要としたうえで、一石を投じたい。審査の規準と方法は、いまのままでいいのか。絵画表現という感覚の世界で、すべて挙手で決まる。平等ゆえに見通しているもの、抜け落ちたものがあるのではない。か。すっきりとだけでなく不協和音への配意など検討が必要だと思えるのだ。昔

マが付き纏うがあれを提案したい。

今回、北海道に飯田由美子、大築笙子の二人、秋田県に石黒厚子とそれぞれ会員が誕生したことは、二科会として明い材料となった。さて、審査中に印象に残った作品を二、三あげておこう。作業船を描きつづけてきた高山章亮の「作業船（群船）①」、相変わらずのテーマでありながら、見事に自分の造形を創りあげた、船と水の色も響き合っ

受賞作品



内閣総理大臣賞 黒い華—羽化する人— F200 五味 祥子

制作の視点

内閣総理大臣賞

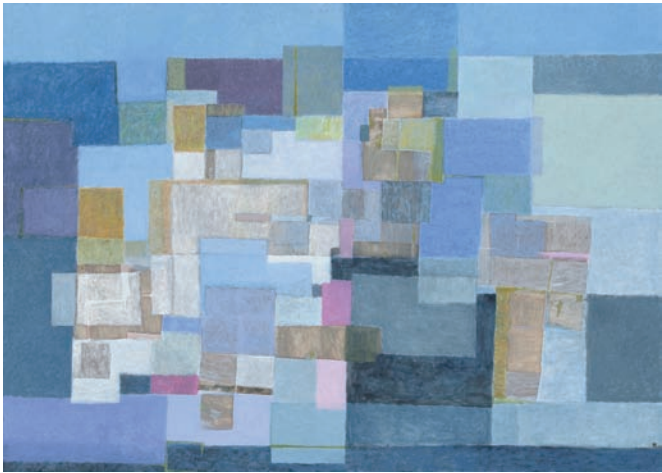
五味 祥子

5枚の黒い花びらが大きく躍動する。飛び出した花粉も風に乗り四方八方に飛び散る。黒で強調した女体がしなやかにそれを受け止める。自然界の営みを花と女で表現してみた。存在感がある女体は周囲に鱗粉をちりばめ赤いバックの前で手を振っている。彼女を「羽化する人」と名付けている。

東京都知事賞

黒川 彰夫

今回の作品は、色面に変化を付けようと、銀箔を貼ってみました。しかし、一夜にして箔と油彩が反応して、銀が金に変色してしまい、いつものブルー系の色が使えず四苦八苦の毎日でした。それがかえって、違う雰囲気を生み出し、今回の受賞となり、ちよっと考え深いものがあります。



東京都知事賞 エッセイ'16-39 P150 黒川 彰夫

第101回二科展 受賞者

内閣総理大臣賞

五味 祥子(石川)

文部科学大臣賞

竹 屋 修(岐阜)

東京都知事賞

黒 川 彰 夫(滋賀)

(絵画部)

二科賞

今村 恵利子(熊本)

パリ賞

石川 由巳子(宮城)

損保ジャパン日本興亜美術財団賞

熊田 奈穂子(千葉)

上野の森美術館奨励賞

中山 かほり(和歌山)

会員賞

上村 育子(宮崎)

須田 美紀子(福島)

藤谷 進(京都)

水谷 征矢生(愛知)

渡辺 倭文子(愛知)

会友賞

市川 久子(千葉)

伊藤 真理子(岩手)

大洞 定治(滋賀)

小川 エリ(東京)

加藤 由喜子(熊本)

金折 文男(広島)

蒲田 宏(神奈川)



二科賞 Force—大地— F100 今村 恵利子



パリ賞 きざしⅣ F100 石川 由巳子



上野の森美術館奨励賞 流木Ⅰ F100 中山 かほり



二科新人賞 「生」的倒錯 F100 尾中 文



損保ジャパン日本興亜美術財団賞 流動 F100 熊田 奈穂子

(彫刻部)

新人奨励賞 川崎 英世(東京)

二科賞

菊島 ちひろ(山梨)

会員推挙

飯田 由美子(北海道)

石黒 厚子(秋田)

大久保 リツ子(福岡)

上村 伊佐子(東京)

木村 利加子(千葉)

瀬野 道子(京都)

高山 章亮(東京)

根木 悟三(京都)

長谷川 昭三(兵庫)

山下 雅洋(静岡)

山下 宏(埼玉)

浅利 美伎子(山梨)

池田 佐知子(富山)

石川 由巳子(宮城)

石原 琢二郎(鹿児島)

伊藤 須美(兵庫)

今村 恵利子(熊本)

岡部 桃子(千葉)

川人 和行(東京)

木村 信子(京都)

工藤 静香(東京)

倉本 郁夫(広島)

清水 尚子(神奈川)

高橋 和平(宮崎)

立花 洋子(福岡)

西垣 雅子(神奈川)

野上 さやか(東京)

平林 直哉(鹿児島)

福島 菜菜(京都)

三木 照男(埼玉)

山田 佳子(愛知)

柳田 賢淑(千葉)

ローマ賞

山田 将晴(愛知)

彫刻の森美術館奨励賞

カツノ ユキコ(東京)

会員賞

上田 快(山梨)

廣瀬 友彦(東京)

会友賞

浅草 義治(愛知)

千葉 伸子(千葉)

特選

荻野 弘一(新潟)

桜井 綾子(埼玉)

本田 俊朗(北海道)

新人奨励賞

齊藤 充輝(宮城)

会員推挙

阿部 昌義(埼玉)

岡村 明(愛知)

服部 多加志(東京)

会友推挙

稲葉 朗(東京)

町田 至(山形)

第101回展 特選作品 寸評



坪坂 一良 ねじれた恋 F100



清水 英子 静けし F100



桑子 純子 樽(C) F100

初入选で特選となった。日常的な現実をファンキーなかたちで切り出して、楽しい展開をしている。濃色に擦り付けたような絵の具の扱いも自在。画面構成も安定している。屈託のない独自の目線がある限り画題は尽きないはず。冒険に出発！
(田川 絵理)

坪坂 一良

初春の日差しに雪解けの始まった山道と木立の影。画面下方を広くとり、曲折する細い道が右から左上へと向かう。途中十数羽の小鳥たちが群れ、画面の上は林立する木立である。雪解けでぬかるんだ起伏した情景を、微細によく表現している。
(江崎 栄彦)

清水 英子

木の樽から造形的フォルムを抽出し、自身の画面を構成する「抽象画」の原義どおりの真摯な制作。再現描写的にならない工夫が色糸のような木目線にも苦勞の跡：色・質感・形：どこまで沿いどれだけ離れるか、実験して独創へ。(田川 絵理)

桑子 純子



向井 博 廃墟Ⅲ F80



宮本 恵美子 擬態の聲 F100



佐野 義博 みつめる F100

打ち捨てられ古さびて行くもののへ惹かれ、よせる心なのか、昨年から寂寥感あるモチーフ。今回は建物の内部を覗いた視点によって、明暗の強いコントラストが出来、門構えの形となってテーマが焦点付けられた。
(田川 絵理)

向井 博

大胆な表現。画面構成が大胆で、インパクトのある作品である。シュールな表現の物体が特に大きく目に入ってくる。バックの部分は、かなり細かく丁寧に描いた上から別色で押さえて雰囲気づくりを行い、主になるものを引き立たせている。色彩的にも個性的で良いと思う。
(木戸 征郎)

宮本 恵美子

深みのある作品。グレーを主調色とした作品である。微妙な色の変化や、白と黒の配色も良く、バランス・リズム・動き・広がり等の効果を上げていると思う。マチエールの面でも細かな抑揚が施されていて、作者の美的感覚がみごとに活かされた深みのある良い作品であると思う。(木戸 征郎)

佐野 義博

第101回展 特選作品 寸評



田中 勢智代 ピース・2 F100



緒方 香江 私を生きる、私の道 F80



大野 久四郎 初冬の頃 S80

観る人に語りかける面白い表現である。何としても、自由で伸々とした表現に好感が持てる。モチーフを曲線的にデフォルメしたところから、絵の中に動きと存在感を与え、画面全体に息吹が感じられる。互いが理解し合い平和な世界を願う作者の心が、観る人に伝わって来る様な絵だ。
(木戸 征郎)

田中 勢智代

ページュのモノトーンの調子の中にも微妙な絵肌の抑揚が表れている。一見単調な画面の様ではあるが、丸い形、赤や緑の線が静かに輝き、徐々に体温を上げながらイメージが表現されていく「私の生きる道」であろう。
(江崎 栄彦)

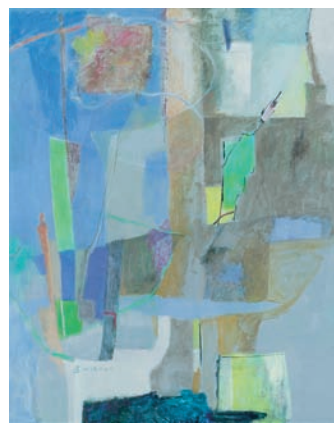
緒方 香江

描かれた木立に初冬を感じる。トタン作りの廃屋と一個のドラム缶、浮き出た赤さびが実に面白くリアル。ティーを生み出している。滅びゆくものたちに光を当て、不安定さをよく表現している。
(江崎 栄彦)

大野 久四郎



友國 富貴 熊野一焰立つ F80



志波 宏子 水の門・泥中の花12 F100



後藤 寿美子 刻むI F100

神秘性が伝わる。作者の制作に対する熱意と工夫と努力が伝わって来る。画面構成では少し右寄りにして広がり工夫し、色彩的には微妙な変化を、色面については、白・黒・赤等の大きさとその配置等が計算されていて、マチエールは繊細で特に良い。重厚で神々しさが伝わって来る。(木戸 征郎)

友國 富貴

画題の水の門と泥中の花から、画面中央の縦に入る黄土色が水門、左上ブルーの中に黄、ピンクの丸い形が花であろう。モデルたちを抽象化し、ハーフトーンの柔らかな色彩でまとめた画面は、温かで穏やかな作者の生命賛歌といえよう。
(江崎 栄彦)

志波 宏子

歯車のクールなフォルムをとおして、不断に続く時の不思議さ、その意味を問い続けている気配がする。情緒を画面に盛り込みたくなってもムードに流さず、制作の深まりに不可欠な描写力で確かな足音を響かせて下さい。
(田川 絵理)

後藤 寿美子



ローマ賞 記憶R 山田 将晴



文部科学大臣賞 記録'16・虚 竹屋 修

受賞作品——制作の視点

文部科学大臣賞

竹屋 修

何故造るのか、彫刻とは何なのか、若い頃の私はなぜか饒舌に語ることができ、その答に一ミリの疑問も持たなかった。それが今では造る程に判らなくなり、自分のたち位置さえ解らなくなつて、それでもただただ造る。こんな事で良い筈はない。虚は私を写す鏡の様です。

ローマ賞

山田将晴

大理石を使い始め三十三年、ようやく少し見えてきた。柔らかな光と影。塊の中が見え曲線が繋がり形が見えてくる。子供の頃夢中で何かを作っている時それは見えていた。最近、研磨を乾式に変えた。これもやとと解つてきた。最近ちよつと頭が柔らかくなつてきた。



会友賞 ひだまりⅡ 浅草 義治



会員賞 Speranza (希望) 廣瀬 友彦



会員賞 density scale 上田 快

会員賞

上田 快

作品を発表し始めた頃、石と鉄のどちらを続けていくか悩んでいた。ここ数年、鉄も作品に取り入れるようになったのは、その頃の自分がいたからだと思う。自分の感覚を信じて、つくり続けていきたい。

会員賞

廣瀬 友彦

毎年ほぼ徹夜で制作して搬入しています。未完成でも…です。原因は自分を追い込むのが甘いからです。作品が評価されたことは大変嬉しく思いました。今後はこの嬉しさを自信に変えて、もう少し自分を追い込んで制作したいと思っています。

受賞作品寸評

会友賞

浅草 義治

ひだまりに、想う女性のフォルムを、デフォルメを伴ったトリッキーな形の表現で、ある種の詩情が漂う。傍らに置かれた帽子は、作られなかった頭部のメタファーか…。自由奔放な表現の裏に、守られるべき、具象彫刻の概念のある事を、今一度想起されれば、より充実した表現になる。 (橋本和明)

彫刻部 総評 鑑賞雑感

登坂 秀雄



彫刻部 集合写真

第101回二科展が8月31日から9月12日まで、(6日休館日)12日間、国立新美術館において開催されました。

第92回展から国立新美術館に会場を移して10年目。ローテーションによる会員の展示委員の作業進行も定着してきて、配置計画、展示進行の指示が的確に行われるようになってきました。作業の安全性とともに、協調性が高まり、公募団体として共同意識の高まりにも繋がって行く事と思います。

AからEまでの室内展示室と、石彫・金属彫刻中心の野外展示室は、緩やかな有機的導線に導かれるように、表現形態と素材との関係が加味されてひとつ一つの作品との対話を大切にした配置がなされているように感じました。特に、昨年の第100回展特別展示室「戦後二科を牽引した作家たち」の為に抛出した250㎡の展示スペースが戻り、パネル設置なしのE展示室として計画された展示空間は、ゆったりと鑑賞しやすい演出がなされていました。

室内展示室と野外展示室をつなぐ休憩室は、本年は

コラボ展の展示スペースとなりました。昨年に引き続き、絵画・彫刻・デザイン・写真の4部門の会員参加のコラボ企画で、本年は「ネコ・イヌ100態」のサブタイトルをつけての展示となりましたが、参加作家の肩肘張らない作品たちが和やかな雰囲気を出し、鑑賞者に一時の息抜きの対話の場を与えていることが感じられました。

彫刻部 新会員紹介



阿部 昌義

会員推挙をいただき、あらためて作家としての生き方を問われているように思います。初入選から素材を変えながら海をゆつくりと漂うように制作してきました。辿り着く港を見つけれられるのか分かりませんが、ここから懸命に漕いで前に前に進みたいと思っています。



岡村 明

材料と接していると、偶然現れる美しい要素に心惹かれることがあります。自分の制作意図に近づけるために、それらに目をつぶりと断ち切る厳しい判断に直面することもあります。自由と厳しさが交錯する制作の中で、自己を解放して、新たな一歩を踏み出していきたいと思っています。



服部 多加志

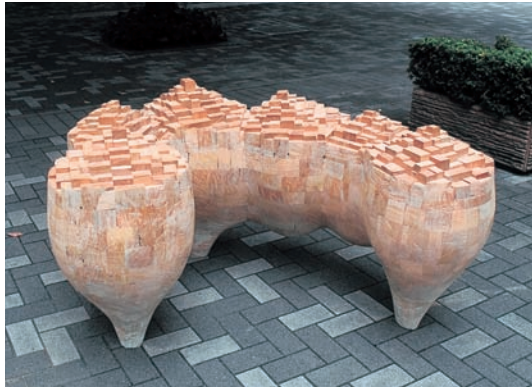
初入選以来二科展出品を最大の目標に彫刻制作を続けてきました。様々な出会いがあり数々の考え方や生き方に接した事が彫刻制作の支えになりました。心から感謝しています。二科会会員として責任のある行動と意欲的な制作活動を続けて行こうと思っています。

として、定位置を決めない事をモットーに、導線を重視しつつ、更に偏りのある部屋作りをしない事を会員の総意としてきました。その結果として、優しい会場空間にはなったと思いますが、インパクト性は如何かと、少し危惧するところです。辛口の批評が飛び交っていた時期もありますが、20世紀の芸術運動的意識が21世紀に入り個の意識に変わってきたのかも思います。私の出品した当時は、二科彫刻のイメージは、抽

象性の高い作品が多いと思っていました。近年は具象傾向の強い作品が増え、半数以上を占めていると感じます。会場をゆつたりと眺め回すところ、表現方法は多様だが、それぞれが生への探求の表出と見るべきであろうと感じます。最後に、ギャラリートークに関して、フィギアー性の高い作品とコンセプトユアルアート性の高い作品を交えての企画は、二科の特徴を示すいい機会となったと思います。



会友賞 マリオネットトルソーⅠ
千葉 伸子



彫刻の森美術館奨励賞 空想 スタチュール カツノ ユキコ



特選 風は西北西 本田 俊朗

会友賞 千葉伸子
 眼を持つギョロリとした眼球、入れ歯を組み込んだような上顎下顎、湯たんぽを思わせるフォルムの胸骨、それを脊髄に繋ぐダンパー群。ユーモアや可笑しさといった言葉に含まれる温かさをその内に潜ませるオブジェクティブアート。発見に満ちて実に楽しい。
 （神田 每実）

彫刻の森美術館奨励賞 カツノ ユキコ
 立方体にカットされたケヤキ材を接着して、上部以外は曲面に削り込んでいる。チェーンソーかノミか手カンナか荒いタッチが残るフォルムが、上面のカチツとした直線の構成との対比で心地良い。
 天空の文明、マチュピチュを連想させる。
 （島田 紘一呂）

特選 本田俊朗
 時の流れを愛しく想い、対象を丁寧に見つめ表現した清々しい作品です。石粉粘土を造形力と技術で見事にまとめています。年齢を重ね、熟成された人間にしか表現できない領域をこれからも探り出し、挑戦し続けて頂きたいと思います。
 （津田 裕子）



特選 さかなの国 荻野 弘一



特選 夢子 桜井 綾子



新人奨励賞 掌中 齊藤 充輝

特選 荻野弘一
 空を見上げ、雲を見、風を感じる日々の生活をリズムカルに表現している。
 洗練された技法が材質を超えたスマートさと生命感を醸し出している。
 2メートル強の大作、一つ石と知ったときもう一度見直させる魅力を持った作品である。
 （藤巻 秀正）

特選 桜井綾子
 夢↓眠り↓微睡(まどろみ)↓脱力↓融けるような心持↓至福。名は体(態)を示す。形の解釈とその実現の為の技術に未だ努力を必要とするも、表現の成立に必須である『リアリティー』『らしさ』を、『正体を失って融けていく様(さま)』に優れて抽象する佳作。
 （神田 每実）

新人奨励賞 齊藤充輝
 この賞に相応しく若々しい誠実な作品である。ただ足の甲の形に弱さを感じた。人体立像で足の甲はその裏側が地山に接するため、どうしてもレリーフ表現になつてしまう。足の裏が全体重を受け止めて緊張している様を想像することで、その観察が深まると思う。
 （宮澤 光造）

パリ賞 研修報告

ラス・メニナスを訪ねて
吉田 紗知
（第99回展 パリ賞）

行先について熟考を重ねた結果、私はかねてから行ってみたいと考えていたブラド美術館のあるスペインを訪れました。

空港に着いた時に感じた尋常ではない暑さに、この気候がピカソやガウディなどの一歩先を行く芸術家たちを生み出したのかも知れないな、等と物思いにふけりながら、ブラド美術館に向かいました。

「ラス・メニナス」その構成は、当時の王室の日常の一場面をスナップ写真の様に切り抜いた様な印象を受けます。当時、絵画は工芸としての意味が大きかったと聞き及んでおりましたが、「ラス・メニナス」はその常識を明らかに超えて存在していました。

中心にはマルガリータ王女の姿が描かれ、それは肖像画としての役割を果たしているであろう事は確かな事ですが、構成は非常に謎めいており、王女から視線を外すと、まるで鑑賞者を見据えるようにこちらへ目を向けてくる作者と視線が合い、画面の中心に

位置する鏡に映る王女の両親へ視線が流れ、自然な円運動を描いて、最後には女官達に混じって王女を取り囲む二人のフリースの存在に思考を奪われます。その絵の前に立つと、絵画とは平面に再現された一つの大きな空間である事が実感出来ました。

私は絵を描くと言う事は、ある種の精神運動だと考えており、自分の内面に有るものを削り出すような気持ちでキャンバスに向かいあっています。しかし、「ラス・メニナス」にはそうした主観を排除した達観的な客観性が有りました。その一枚の絵画に、私は絵と自分、その二つのものの距離感を考えさせられました。その二つのものの距離が近いと言うこと、それはもしかしたら鑑賞者から何らかの余地を奪う事なのかも知れない、と思いつたのです。
 時には遠くから自分と絵画の関係性を見つめ直す事も大切だと言うことを、その一枚の名画に気付かされた研修旅行でした。
 また、この機会を頂いた事に感謝の心を忘れず、今度も一層精進して参りたいと思います。

ローマ賞 研修報告

ローマ紀行
市川 明廣
（第100回展 ローマ賞）

第100回記念二科展が終わって間もない11月中旬、イタリア研修旅行に行ってきました。ミラノ、ヴェネツィア、フィレンツェ、ローマ8日間。中でもローマは、実り多い研修の地になりました。成田から出発する前に、通訳を

頼んでいました。ホテルに、通訳ヨウコさんがペンツのランドクルーザーで迎えに来てくれ郊外のティヴォリに行きました。トラバーチの採石場をいくつも見学しましたが、無尽蔵かと思わせる圧倒的な量でした。また、切り出した原石に触れてみましたが、質の高さが窺えました。ローマでは、トラバーチンをトラベルティール・ローマーノと言い、



語源はティヴォリの石というラテン語から由来していることを聞きました。近くには、エステ家の広大な別荘がありました。拙作「へんだがやの森」の人物部分は、影響を受けたのかと言われたエフェソスのアルテミス(多産の女神)おっぱい一杯の像も、噴



水として表されていました。市内でテレビの泉、ナヴォーナ広場ベルニーニの噴水などを観ました。特に近くで観たベルニーニの馬の下半身は、トラバーチンで造られていました。驚きしました。残念だったのは、コロッセオが修復中、しかも長い歴史の中で風化し摩耗したトラバーチンが遺跡として重要な価値なのに、修復された部分を観るとトラバーチン柱のエッジが立っていました。私の修復感覚とは違うのかなと。
 通訳ヨウコさんのお義母さんは、ジョコモ・マンズーの制作スタッフだったと。そのお蔭で石彫道具店を紹介してくれました。埼玉県立近代美術館には、マンズー作「枢機卿」の石彫が鎮座しています。

9月3日・4日・10日・11日 絵画部ギャラリートーク



9月3日 鎌田会員



9月3日 井田会員



9月4日 戸狩会員



9月10日 加覧会員



9月10日 江崎会員



9月11日 吉田会員

二科ショップ

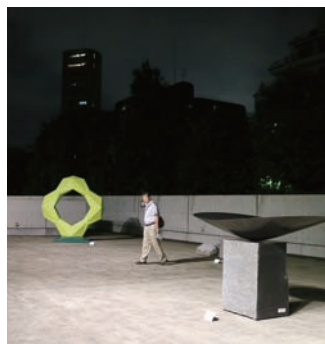


チャリティーコーナー併設

■ 9月2日・9日 ナイトミュージアム 夜8時まで開場



9月9日 ミニコンサート SUNNY PANNY



野外彫刻ライトアップ



これから更に、コラボ展示の意義を加速させるためにも、行動しやすい(フラットワーク)の良い環境の基で、発展していくように期待を込めて応援していく所存であります。

今回、第2回コラボ展示のメインテーマは昨年と同様「あそび」は変えず、サブテ

第3回コラボ展示を迎える来年は、新しいテーマに沿ったより良い「展示の在り方」及び「作品の在り方」までを視野に入れたコラボ展示にしていかなければなりません。何とかコラボ展示の「在り方」としては、軌道に乗ったようになっています。

その展示作品を、1階・2階の各4室に配分したのですが、その作品数と観せ方(展示)に若干の問題が生じることとなりました。

昨年、大好評だったコラボ展示は、今年第2回を迎えるにあたり、1階休憩室4室を追加して展示会場面積が2倍になりました。また、前回は最初ということもあり、何かと準備不足のために企画した幾つかを実現できませんでした。今回はコラボ展示作品記録としての「目録と「ポストカード(32点抜粋)」を制作して販売いたしました。

第101回二科展コラボ展示報告

コラボ展示実行委員会委員長 堀川佳英



8月31日 10:00 オープニングセレモニー



左より

一般社団法人二科会写真部 理事長 森井禎紹
公益社団法人二科会 彫刻部代表・常務理事 菅原二郎
NHK厚生文化事業団 理事長 鈴木賢一
公益社団法人二科会 理事長 田中 良
一般社団法人二科会デザイン部 理事長 今村昭秀

NIKA
101th
2016
event
memo

8月31日 18:00～ 第101回二科展懇親会



田中理事長挨拶

次は大阪巡回展！
関西支部集合

8月31日 14:00～ 授賞式 3階講堂



会員推挙



東京都知事賞 黒川彰夫

8月31日 作品研究会 12:00～14:00 1・2・3階展示室 一各会場で担当会員を囲み、熱心な講評が行なわれたー



9月4日 彫刻部ギャラリートーク



特選 桜井さん



上田会員



角谷会友

■理事會報告

本年5月の定時会員総会で新理事が承認されてからの理事会で検討されたことでは、まず各理事の担当する役割が変わりました。その詳しい表は会員配布資料にあります。

出品者が極端に少ない地域を地方任せにせず、本部からもテコ入れしていく必要があるということから、担当理事を配しました。東北六県の実合展の実施で大きな成果を得ています。そうした成功例をもとに北海道、中国・四国などへの働きかけを強めようとの配慮からです。

また、以前に全会員に対して、「選挙について」や「展示について」などのアンケートなどを実施しましたが、その貴重な意見を踏まえて、「選挙制度検討委員会」を設け、現行の方法での欠点などがあれば指摘、検討を重ね改善案を出していただき、さらに「モニター委員」に精査してもらい、会員総会に諮り、承認を得て実施する予定です。(生方)

■評議員會報告

101回展示前日の8月29日、評議員会が開かれた。

参加評議員17名。

100回展を終えた新出発にあたり、応募者に向けてどのような魅力を示せるものか、各地方の実感を持ち寄って意見交換した。現行のチラシや広報活動以外に若年層の関心を惹く宣伝の工夫、団体展で継続して出品しながら画境が深まって行く醍醐味や、昔日の画家たちが命懸けで求めた絵画の理想などを二科展の価値、魅力として発信する方法はないか、またU35へ適切な項目のアンケートを実施する案等々、幾つかの具体案がその場の話し合いの中で浮上し、実効的印象などを議論した。必要な改革の資とされると願って働く、二科会発展を望む評議員一同は今後、理事会と会員、出品者をつなぐ提言を討議していきたい。(田川)

計報

彫刻部会友

栗田 哲也氏

略歴

二〇一六年八月二十四日逝去
享年79歳
一九六五年 第50回展特選
一九六六年 第51回展会友推挙
一九八四年 第69回展会友賞

事務局だより

年に一度の秋の二科展も沢山のドラマを繰り広げながら無事に(表1・3参照)終了する事ができました。そして、今回の巡回展では運送システムに新たな試みを加え、7つの都市を半年かけて巡ります。一つのイベント開催には、沢山の方々の努力の結集が必須となりますが、年齢を感じさせない先生方のお働きぶりに、心より感謝いたします。

その年の展覧会を窺い知ることの出来る刊行物も、作品集、受賞者名簿、出品者目録、被災地児童・生徒特別展示を纏めた小冊子、そして今年からコラボ展示作品目録も加わり、充実して参りました。また二科展のホームページでは、4部門の受賞作品や二科展情報、ギャラリー頁には、会員会友の作品が蓄積され、パソコンだけでなく、タブレットにも対応し、閲覧し易くなりました。

はらはらした事としては、展示日に東京直撃と予報された大型台風10号の襲来。(結果は予報のコースを外れて心配も杞憂に)又、定例の

表1

種別	入場者数
一般当日	4,584人
前売り券入場	4,583人
高校・大学	608人
チラシ割引	607人
チケットぴあ	136人
団体割引	0人
企画割引	220人
新聞社優待券	2,258人
有料入場者	12,996人
無料入場者	77,591人
入場者合計	90,587人

表2

区分	搬入点数
絵画・一般	2,672点
絵画・会友	1,085点
彫刻・一般	60点
彫刻・会友	37点
合計	3,854点

(101回コラが展示を除く)

表3

展示 (連作含む)	点数	人数	35才以下 出品者数	35才以下 応募者・在籍者数
絵画・一般	754点	703名	68名	78名
絵画・会友	354点	259名	7名	8名
絵画・会員	157点	157名	-	-
彫刻・一般	48点	48名	16名	19名
彫刻・会友	37点	36名	5名	6名
彫刻・会員	57点	48名	-	-
展示合計	1,407点	1,251名	96名	111名

二科展ミニコンサートと美術館主催のジャズ演奏とが同じフロアで、30分間バツティングするという場面もありましたが、双方の音色が影響される事もなく、それぞれに大盛況であった第101回二科展でした。

全国の会員が一堂に顔を合わせる事の出来るこの機会に開かれた会議は、理事会、評議員会、支部長会議、巡回展会議、4部門会議、そして担当委員による会議(作品集・展示・総務・広報・義援活動・コラボ等)と盛り沢山。常に情報を共有しながら建設的な話し合いが出来る二科会。多くの人の声に耳を傾け、反省を踏まえ、次回に繋げようと

編集後記

東京で閉会した第101回展は、7都市での巡回展が順次始まりました。全国

会員は通年様々な役割を分担し会の運営に動いております。開催各地では、地域の会員諸氏が支部を束ねて、独自の展示、催事を準備されています。自然が風土と季節の中で色を変えるように、各地の特色ある二科展も楽しみであります。◇紙面は、開催事業の記録とともに、各地の支部の活動などもできるだけ紹介し、多くの方々へ二科会をより知っていただくよう努めてまいります。任期による交代で、関西在住の編集委員を迎え、地区発信の情報を全国視野で臨めるように思います。◇やや大判とした表紙に彫刻部・大臣賞作品展示会場、新鮮な表現と価値観を期すU35室、生徒さん達の鑑賞で賑わう会場などを配しました。(N)

編集委員

委員長(絵) 野村 みそら
委員(絵) 田川 絵理
" " 尾崎 ゆき子
" " 谷口 貞久
" (彫) 廣瀬 友彦
" " 宮澤 光造

二科会

平成二十八年十一月一日発行
公益社団法人 二科会
〒100-0022 東京都新宿区新宿4-13-15
レイフポート新館501号室
電話 03(3354)6646
FAX 03(3354)4768